

# 「エコー」に出会えて、良かった。



JSCSM

第30回日本臨床スポーツ医学会学術集会

ランチョンセミナー6

## 「スポーツ現場におけるポケットエコーの有用性」

2019年11月16日（土） 12：40～13：40

第7会場（パシフィコ横浜 会議センター315）

座長： 帖佐 悦男 先生（宮崎大学医学部整形外科 教授）

演者： 笹原 潤 先生（帝京大学スポーツ医科学センター 准教授）

### 【認定単位】

N 整形外科専門医資格継続単位1単位 必須分野：1整形外科基礎科学  
または Sスポーツ医 資格継続単位1単位

共催：第30回日本臨床スポーツ医学会学術集会 日本シグマックス株式会社

# 「スポーツ現場におけるポケットエコーの有用性」

笹原 潤 先生

帝京大学 スポーツ医科学センター

近年、整形外科診療における超音波の有用性は広く認知されるようになり、とくに軟部組織損傷の頻度が高いスポーツ傷害に対しては、必須の画像診断となりつつある。数ある画像診断ツールの中における超音波検査の優位性は、簡便かつ非侵襲的であることと、リアルタイムに「動き」の中で観察・評価できること、ポータブルエコーなど機種によっては持ち運びができること、そして画像診断ツールにとどまらず、注射や手術等インターベンションのガイドとしても有用なことなどである。その中でも、ポータブルエコーは病院外に持ち出してスポーツ現場でも使用可能なため、様々な可能性を秘めている。

各種スポーツ検診やスポーツ現場にポータブルエコーを携行することにより、スポーツ傷害の早期発見、早期介入が可能となってきている。また、医師がスポーツ現場にいない状況でも、チームに帯同しているセラピストやトレーナーがポータブルエコーで撮像した画像をメール等で共有してもらうことにより、スポーツ現場で起きた選手の怪我について、その詳細を把握することが可能である。その際は、適切な手段で選手から同意を得た上で、かつ送信するエコーデータは匿名化しロックをかけておくなど、選手の個人情報の管理について細心の注意を払う必要がある。

ここ数年間でポータブルエコーの小型化はさらに進み、タブレット端末で画像が観察できるポケットエコーが次々と市場に出てきている。本講演では、スポーツ現場にエコーを持ち込む意義、そしてポケットエコーの有用性について、実際の活用方法も含めて紹介する。

## 略歴



笹原 潤 先生

2003年3月	鹿児島大学医学部医学科 卒業
2003年5月	帝京大学医学部整形外科 入局
2008年4月	帝京大学医学部整形外科 助手
2011年4月	帝京大学スポーツ医科学センター メディカルスタッフ
2015年9月	博士(医学)取得
2016年1月	帝京大学医学部整形外科 助教
2016年4月	帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科 講師 帝京大学スポーツ医科学センター 講師(兼担)
2018年7月	帝京大学スポーツ医科学クリニック 院長
2019年10月	帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科 准教授 帝京大学スポーツ医科学センター 准教授(兼担)



汎用超音波画像診断装置

ポケットエコー **miruco**  
リニアプローブ



超音波画像診断装置

**Viamo sv7**